

令和6年度 認定こども園岡本の取り組みと評価

令和7年3月13日

この度、今年度の保育や活動を振り返り、職員が自己評価を行いました。それぞれの評価結果を踏まえて、成果や課題、改善方策などを話し合い、園評価としてまとめました。この結果を受け止め、保育活動の充実や職員の資質向上に努めていきたいと思えます。

Ⅰ 教育・保育活動の成果

① 成果

(1) 環境による教育・保育

『主体的に遊ぶための環境づくり』をテーマに、みあいっこ保育や事例研修、保育環境についての研修を行い、園児一人一人の発達を踏まえ、園児が主体的に遊んだり、生活したりすることができるような環境の工夫に取り組んできました。保育環境の研修では、園児や保育者が安全でスムーズに動けるための動線を重視しながら環境構成を考えたり、園児が自分で選べる環境、自ら挑戦したくなるような環境などについて話し合いを行い実践してきました。悩んだり、迷ったりしていることを職員間で共有し、話し合いを重ねてきたことで、園児一人一人の遊びの様子を丁寧に見取り、興味や関心を広げる環境づくりが、主体的に遊ぶ園児の姿につながっています。

園内研修では、チェックリストを用いて人権研修を行い、各自自分の保育や園児への関わり方を振り返り、「不適切」な言動について話し合いをもってきました。職員一人一人が、園児の姿を認めていく言葉掛けや関わり方を意識し、心掛けています。

運動会や生活発表会では、普段の遊びや園児が得意なこと・興味をもっていることを取り入れたことで、園児が主体となって取り組み、無理なく意欲的にすすめることができました。

(2) 食育について

給食を食べている園児の様子を調理員がこまめに見に行き、離乳食やアレルギーについて職員や保護者と連携しながら提供してきました。また、行事食の由来や箸の正しい持ち方や椅子の座り方を知らせたり、保護者には園児の好き嫌いについてのひと工夫や園児に人気のメニューのレシピなども紹介してきました。

(3) 危機管理について

毎月の避難訓練前後に職員で検討・反省を行い、職員一人一人の危機管理に対する意識の向上を図ってきました。年度の後半では、予告をせずに避難訓練を行うことで、園児が安全に避難するためには自分がどのような役割を担って、どのような動きをしたらよいかそれぞれが判断できるようになってきました。

(4) 保護者との連携や地域との交流について

コドモンで園児の遊びや活動、生活の様子を写真で配信しました。日頃、連絡帳の文字だけでは伝わらない園児の生き生きとした姿を保護者と共有することができました。また、保育参加後に、保護者同士で悩みや他の保護者に聞きたいことなど話し合う時間を設けたことで、普段あまり顔を合わすことがない保護者と話したり、悩みを共有することができ、保護者同士のつながりをもつことができました。

地域の方に来ていただき5歳児が五箇地区や地区の祭りなどの話を聞きました。自分が育つ地域に関心を持ち、お神輿ごっこや和紙すきごっこなど遊びや活動につながっていききました。

（５）小学校との連携

マラソン大会の応援に行ったり、学習発表会の予行を見学したりすることで、小学校生活に親しみや期待をもつ姿につながっています。また、就学先の小学校と連携会議を実施し、園児一人一人の育ちを丁寧に伝え移行支援につなげていきました。



② 課題

- ・園児一人一人の様子を丁寧に見取り、園児の主体性を大切にしながら、遊びの中で学び、試行錯誤していくような環境構成を工夫し、保育の質の向上を図る。
- ・未然に防げる園での事故やケガについて、全職員で共通理解し、職員一人一人の安全意識が高まるようにしていく。
- ・職員と保護者、保護者同士が悩みに共感したり、園児の成長を共に喜んだりしながら、保護者同士のつながりが深まるようにしていく。

2 来年度の園経営、教育・保育活動における改善策

- ・職員間で園児の学びや遊びの様子を伝え合ったり、環境構成について考え合ったりする時間を継続してもつことで全職員で共通理解し、保育を行っていきます。
- ・ヒヤリハットの記録を元に話し合いの場をもち、様々な視点から考え合い改善点を見つけたり、研修を行ったりしながら事故防止・再発防止に努めていきます。
- ・保育参加後のおしゃべり会やサロンなどを実施することで、同じ年齢の子どもをもつ保護者同士や同じ地域の保護者が顔を合わせる機会をつくっていきます。